

発行  
北海道ポーランド文化協会

〒060-0018  
札幌市中央区北 18 条  
西 15 丁目 3-19 安藤方  
電話・FAX 011-556-8834  
hokkaidopolandca@gmail.com

# POLE

第 94 号 2018.4.10  
北海道ポーランド文化協会 会誌

北海道ポーランド文化協会  
東京事務所

〒107-0052  
東京都港区赤坂 9-6-29-309  
音響計画(株) 霜田気付  
電話 03-6804-1058  
FAX 03-6804-6058

## ♪ 《創立三十周年記念演奏会》 ♪

北海道ポーランド文化協会  
創立三十周年記念演奏会

2018.6.23(土) 17:00開場

札幌コンサートホールKitara 小ホール

料金 ¥2,000

お問い合わせ先 011-556-8834(安藤)

本協会創立 30 周年を記念し、会員の中の演奏家有志の力を集めて、ポーランドの作曲家のピアノ曲・声楽曲を通して、ポーランド音楽の多様な魅力に迫ります。

会員の皆様お誘い合わせでのご来場で演奏会を盛り上げていただけますようお願い申し上げます。

会場:札幌コンサートホール *Kitara* 小ホール

日時:2018 年 6 月 23 日(土)17:00~20:00(開場 16:30)

入場料:2,000 円、チケットは出演者か運営委員からお求めください。

ご予約・お問い合わせ先 011-556-8834(安藤)

(ピアノ)

子犬のワルツ、雨だれ/ショパン:安藤むつみ  
ノクターン、幻想的クラコヴィアク/パデレフスキ:國

谷聖香

ピアノソナタ No.2 より/バツェヴィチ:徳田貴子

バラード No.3/ショパン:川本彰子

バラード No.4/ショパン:水田香

バラード No.1/ショパン:西村範子

トリプティック・ポルスキ/マギン:坂田朋優

ソナチネ/バツェヴィチ:田口綾子

エチュード Op.4-3/シマノフスキ、エチュード

Op.25-7/ショパン:川染雅嗣

(声楽)

クルビエ地方の歌より/シマノフスキ:高橋可奈子  
(伴奏)黒田佳奈子

ショパンのマズルカによる歌曲集/ヴィアルド:松井  
亜樹(伴奏)高橋健一郎

(ピアノ)

2 台のピアノの為のロンド/ショパン:本田真紀子、坂  
田朋優

ヨハン・シュトラウスのワルツによる幻想曲/ダンスマ  
ン:名取百合子、高島真知子

(お話) 三浦洋(北海道情報大学教授)



創立 20 周年記念ピアノコンサート (2008.5.17) / 創立 25 周年記念コンサート (2012.5.12)



## 「アウシュビッツの聖者」 コルベ神父と ガヨヴニチェック軍曹

松本 照男

コルベ神父の事跡を見ると、私はいつもささやかな一つの出会いを思いおこし「生」と「死」という大きなテーマにぶちあたる。重いけれど、一度は考えてみる価値があるテーマではないだろうか？

### マキシミアノ・マリア・コルベ神父 (1884～1941)

アウシュビッツ強制収容所で餓死させられたカトリックのコルベ神父のことを知る人は多いだろう。77年前の1941年、第二次世界大戦中の出来事である。

信心深いポーランド家庭で育ったコルベは、少年の頃から通う教会内部の柱に常に聖母マリアの姿を見ていたという。長じてイエズス会付属の学校に通い、成人してからは日本の地に宣教師として赴きカトリック信仰の布教を終生の願いとするようになった。なぜ日本へ？という問いには、若い修道士のときに出会った日本人との対話から、日本での布教活動を決めたといわれる。聖母マリアへの愛を中心に、コルベはワルシャワ郊外にフランシスコ会のニエポカラノフ修道院を設立し、日本語も知らないまま長崎へ布教活動に赴いたのは1930年のことであった。1936年に帰国して院長を務めた修道院は徐々に軌道にのりはじめ、日本への布教に若い修道士たちが定期的送られるようになった。1939年9月、第二次世界大戦が勃発、コルベ院長も1941年2月ドイツ軍に逮捕されアウシュビッツ強制収容所に収監された。

### フランチシェク・ガヨヴニチェック軍曹 (1901～95)

職業軍人のガヨヴニチェックは1939年の開戦時、負傷して捕虜になり、脱走・国外脱出中に逮捕され1940年10月にアウシュビッツに収監された。

1941年7月、強制収容所より囚人が脱走したこ

とへの連帯責任として10名の囚人が見せしめに処刑されることになり、そのなかにガヨヴニチェックがいた。突然の悲運に嘆き悲しむガヨヴニチェックの代わりになると申し出たのがコルベ神父であった。収容所のドイツ官憲は驚きながらもこの申し出を受け入れ、10名の囚人たちは死の10号ブロック棟で餓死させられた。一方、ガヨヴニチェックはアウシュビッツ、ザクセンハウゼン収容所の地獄を経て生き残り、1995年に94歳で亡くなった。

### 生き残った苦しみ

カトリック信仰の極地ともいべき隣人愛を表現して殉教したコルベ神父は1982年にポーランド出身のローマ教皇ヨハネ・パウロ2世により聖人(シュヴェンティ)として叙階され、今日では世界中の信者たちから賛美、尊敬の対象となっている。

一方、地獄を生き残ったガヨヴニチェックは戦後のポーランドで生き残った苦しみに耐えていた。1980年代後半、私はフランシスコ会修道院長の紹介で地方都市に隠棲するガヨヴニチェックさんに会うことができた。戦後、氏は妻には再会できたが、子どもたちは空爆で死亡。「なぜ、あの時死なずに生き残ってしまったのか？」との思いに悩まされながらもずっと生きてきたと語った。最終的にはコルベ神父の教えと共に生きることで、なんとか今日まで生き残った悩みを抱きながら歩んでくることができましたと、か細い声で淡々と語るのが印象的だった。

それは、状況は異なるが、神風特攻隊でエンジン不調や、出撃の順番がこないまま終戦を迎えた特攻員の、亡き友たちへの惜別の思いや苦渋にも似たものがあるといったら言いすぎだろうか？

(まつもと・てるお、2018.3)



〈後援〉ポーランド映画 2018 in 札幌、会場:札幌プラザ2・5(2階劇場)  
 日時:2018年4月21日(土)10:30～入場チケット販売・整理券配布、11:30～主催者挨拶、お話し「ポーランド映画の百年」三浦洋・北海道情報大学教授、11:45～『二つの冠』2017 ミハウ・コンドラト監督、13:50～『最後の家族』2016 ヤン・P・マトゥシンスキ監督、16:30～『早春』デジタル・リマスター版 1970 イエジー・スコリモフスキ監督  
 『二つの冠』:「アウシュビッツの聖者」と呼ばれたカトリック司祭マキシミアノ・コルベの生涯。その数奇な運命を、記録映像と再現映像を組み合わせたドキュメンタリー手法で映画化。2017年カンヌ映画祭特別上映作品。

# スゴイ！

## ～雪まつりの思い出、日本の思い出～

### トマシュ・コツランガ

人は称賛やお世辞が大好きです。特にアーティストは誰よりもそうで… アート作品に対する観客の理解と好感は、アーティストにとってきわめて重要です。世界中を旅して新しい作品やプロジェクトを展示することは、いつもチャレンジです。北海道への旅はその種の大きな経験の一つで、忘れがたいものになりました。

#### さっぽろ雪まつり

どうして忘れがたいのか？ さっぽろ雪まつりのユニークさはどこにあるのか？ ——答えは簡単で、人々です！ 雪でもなく、雪像作り自体でもなく… 観客との出会いです。終りのない会話、数百の写真撮影、数千の人々の感嘆の声。アイデアは何ですか？ これは何を表しているのですか？ この形は何ですか？ といった熱い反応や質問の数々。生き生きとした反応と賛嘆の声、これこそアーティストの期待するものですが、多くの場合、夢に終わります… しかしときには現実となることもあって、これは実は夢なのだと思っていると、きつと誰かの「スゴイ！」という大きな声で目が覚めるのです。

#### 初めての日本

初めて日本を訪れたときのことはよく覚えています。ほんの4年前のことで、私の想像や期待、ステレオタイプはすべて見直さなければなりませんでした。

若いときの日本への憧れの記憶、安部公房や川端康成、そして大阪のペンフレンドからもらった手紙に描かれていたナマズの絵は、30年以上前のことで、ほとんど消えてしまい… 過ぎ去った歳月とともに失われていました。残ったのは、色あせた思い出の断片、本や映画の一場面や、それまでに見たなかでいちばん薄い紙に書かれた、色あせた手紙の色あせたインクでした。

むかし私も学生だったころ、未知の女学生から手紙をもらいました。そのころ日本は「遙かかなた」の国で、インターネットもソーシャルメディアもなく、よく手紙をくれる人がいて… ポーランドは「別の国」、日本は「別の惑星」のよう



でした。

こうした記憶が突然目を覚ましたのです。生き生きとした想像が頭の中で爆発して… 行くぞ！ 青春の憧れの国、「別の惑星」の国、日本へ。

まず東京に着きました。タタミ敷きの典型的な和室を予約してありました。そのころ私はとても忙しくて、ロケーションを注意深くチェックする暇がなかったのです。都心、メトロ駅近く、よし、申し分なし。長いフライトで二度乗り換えて成田に着き、列車とメトロを乗り継いで街中のホテルに向い、部屋に入りました。なかなかいい、とてもいい… タタミ、東京、日本、康成、黒澤、公房、そして30年以上前に手紙をくれた女学生のオカモト・ヨーコ、すべてが脳裏に甦り… 色あせた思い出が再びカラーになったのです。

数分後には街に出ることに決めました。本物の日本を見て、雰囲気を感じて、古い想像を現実と照らし合わせよう。ついに来た!!! 長年の夢だった。街に出て本や映画の「ヒーローすべて」に会おう…

外に出て、最初の角を左に曲がって…??? これは何？ 奇妙な服を着た少女が、何やら日本語で説明したパンフレットをくれた… さらに数歩進むと、さらに奇妙キテレツな服を着た別の少女が別のパンフレットをくれた… ここはどこ？ 「砂の女」はどこ？ 消えてしまったの？ 「眠れる美女」はどこ？ 彼女たちも消えてしまったの？ 瞬くネオンの光とパチンコの音がヒントだった… メイドの衣裳の新しい「ヒロイン」が私を歓迎してくれた。ここは秋葉原、本物の日本、でもまたまた「別の惑星」のよう。

#### スゴイ！

あれから多くのことが変わり、今年は5度目の日本訪問。日本で多くの土地を訪ね、多くの人に会い… たくさんの友人ができて、「別の惑星」の日本から妻を迎えた… 数年前はショックだったけれど、いまは「スゴイ！」と言える。 (2018.3, 安藤厚訳)

Tomasz Kocłęga 彫刻家、カトヴィツェ美術大学講師。ポーランド雪像チーム Snow Art Poland リーダー。さっぽろ雪まつりに3回、なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップに1回出場。写真(上)コツランガさんと安藤会長 (下) Snow Art Poland チームと日本の子どもたち



# オーストラリアで麻雀を楽しむポーランド人たち

ラファウ・ジェブカ

2017年の1月から9月まで家族を連れて在外研修のためオーストラリアのキャンベラに行ってきました。自分は研究、家族は英語の上達が目的でしたが、自然にたくさんの在オーストラリアのポーランド人や日本人と知り合って交流しました。

私の職場であったオーストラリア国立大学(ANU)の学際的な研究所には、日本人は一人だけでしたが、言語学者が多く、日本語とポーランド語が話せる人もいました。ANUは留学生と外国人スタッフが多いことで有名で、日本学科に行くと日本人の先生から日本語を学ぶ学生も多く、日本語の小説の貸し出しも可能でした。

## オーストラリアの日本紹介イベント

14歳の息子ミコワイのためにいろいろな本を借りるとき、日本人スタッフからキャンベラ補習授業校の存在を知り、長男は毎週土曜日に日本人の高校生たちと一緒に日本語で勉強していました。そこで勉強している子供を待っている間に、親同士が情報交換したり、不要になった服や日本からの食材を売買したりしました。そのグループを中心としたイベントもあって、例えば「秋祭り」では、オーストラリアの人々に日本文化を紹介する折り紙や書道などのコーナーを設けたり、歌や踊りの子供団体をステージに招いたりしました。小学校から日本語を勉強している子供も多く、日本人が一人もないグループもありました。外の屋台でたこ焼きなどを食べられる感動的な半日でした。そのほかに大きなイベントは春の「花見」で、首都の目玉スポットであるバーリー・グリフィン湖沿いに作られた日本庭園で行われ、多くのキャンベラ市民が集まります。

妻のエディタは最近あまり使っていなかった英語の勉強のためほとんど毎日バスで、町中の図書館などで行われている無料レッスンに通っていました。キャンベラは首都ですが、人口は約35万人だけで、国内で8番目、それほど大きな都市ではありません。



のおかげで中心街から離れた場所まで公共交通機関で移動できて、ボランティアの教師による英会話話が楽しめます。

妻は二回目の集まりではもう日本人やポーランド人と知り合って、在オーストラリアの日本人やポーランド人のコミュニティーにも近づきました。



## ポーランド人コミュニティー

世界中のポーランド人はよく教会で集まったりしますが、キャンベラの Polish Church は街の郊外にあるので、ANU 近くの Polish Club “White Eagle” (白鷲) というレストラン&バーがポーランドのイベントの中心になっています。毎水曜日に Pierogi (餃子) とポーランドビールが人気セットになり、さまざまなバンドがミニコンサートをしたりするお店で、ポーランドとあまり関係がないお客さんもたくさん来ます。日本人の友達も「白鷲」をよく知っていて、ポーランド餃子が大好きでした。日本の基本的な食材は複数の「アジアのスーパー」に揃っていますが、ポーランドの食材は毎週約 300 キロ離れたシドニーから運ばれて販売されます。毎土曜日にポーランド教会で月に 2 回、White Eagle で 2 回と場所を変えて、ポーランドのレシピで作られた肉製品やケーキ、輸入食品(蕎麦の実のカーシャ、キュウリやきのこのピクルスなど)を買って懐かしい味を楽しみました。驚いたのはポーランド人以外のお客さんの数の多さで、ヨーロッパのさまざまな言語が耳に入り、アジアの方も少なくなかったです。長い列で 40 分も待たりましたが、その間に一緒に並んでいる人たちとの会話が面白かったです。



他の国と同じように、オーストラリアにおけるポーランド人の移民は大きく三つの波に分けられます。戦後の移民、1981年の戒厳令以降の移民と、1989年以降に来た「自由に世界に出よう」という比較的若い人たちもいました。90歳近くの女性の40年間かけて妹さんの行方を追った物語から、ポーランドの肉の作り方の秘密までいろいろな話を聞き

ました。日本人やオーストラリア人はあまり口にしない、かなり率直なポーランドジョークも久しぶりに聞きました。

### 日本人会の活動、麻雀会

小さなキャンベラに約 4,500 人ものポーランド人が住んでいるのに対して、在キャンベラの日本人はその3分の1だそうですが、日本人による活動の方がいろいろ具体的にオーガナイズされているように見えました。例えば日本語が話せるお医者さんのリストや、日本の食材が買えるお店のリストなどが日本人会のサイトで公開されていて、定期的な集まりも多かったような気がします。その一つは「麻雀会」です。

実は長男がオーストラリアで日本の漫画を読んで覚えた麻雀にハマり、ネットの試合ではなく、ぜひ本当の牌でゲームをしたいと言いました。最初は e-bay(日本のヤフーオークションに当たるサイト)で購入した小さい麻雀セットを使って家族3人でや



っていましたが、親のレベルが低すぎて、息子が土曜日の補習校で知った「麻雀会」に通い始めました。年配の方が多いのですが、長男は恥ずかしながら「本物の牌」を打ちながら日本語で交流していました。日本人以外にオーストラリアの女性もいました。日本に住んだ経験があって、日本語はあまり話せないけれど日本と日本人が大好きで、帰国後もずっと日本人コミュニ

ティーのイベントに関わっているそうです。筆者もスキルアップのため麻雀会に参加したので、ポーランド人が2名加わって一時的なプチ国際化が起きました。北海道出身の方もいて、お孫さんがすすきの交番の前で「ろばた鳥一心」というお店を始めたと聞いて世間は狭いと実感しました。

### 二つの故郷

たった8カ月の滞在でしたが、「帰れる場所」が増えた気がします。自分が生まれたポーランドも、人生の半分近くを過ごした日本も、親しみを感じて当然ですが、ポーランド人と日本人が共にいると、自分の国の「新しい次元」がわかって、ときには苦い望郷の思いがすこし和らいだ気がします。オーストラリアのような多国籍の人々が生活する国では自分のルーツを忘れることが心配かもしれませんが、実際は自分のアイデンティティをより深く理解することも多いのです。多様な背景を持った人々の交流の場が重要で、お互いに理解しあい自分の文化の良いところと、あまり良くないところがわかれば、より豊かな自分が生まれると肌で感じました。

ポーランドも日本も、そういう多様な刺激を受けやすいとは言い難い面もありますが、普段親しみのないポーランド文化に興味を持ってイベントなどに参加して下さる POLE 読者の皆さまのおかげで、日本は外国人にとってますます住みやすい場所になっていることが、遠いオーストラリアに行き行って改めてよくわかりました。心から感謝しております。

(Rafał Rzepka, 2018.2.18)

写真(1)秋祭りの書道コーナー (2)妻(左4番目)の英会話グループ (3)白鷺のポスター「ポーランド餃子とビール」 (4)日本人、オーストラリア人とポーランド人の麻雀会

## 第19代札幌コンサートホール専属オルガニスト

### マルタン・グレゴリウスさんの演奏会など(2018年6~8月)

○〈後援〉**♪オルガンサマーナイトコンサート**、出演:マルタン・グレゴリウス、札幌コンサートホール Kitara 大ホール、6月9日(土)18:00~、入場料(全席指定)500円

○〈後援〉**♪Kitara のバースデイ**、出演:マルタン・グレゴリウス(オルガン)、ライナー・キュッヒル(ヴァイオリン)、札幌コンサートホール Kitara 大ホール、7月1日(日)15:00~、入場料(全席指定)1,000円、U25シートほか500円



◎《第86回例会》**♪マルタン・グレゴリウス オルガンリサイタル**、北大クラーク会館講堂、8月10日(金)午後、入場無料

○**♪Kitara オリジナル CD**、演奏/マルタン・グレゴリウス、収録曲/J.S.バッハ:ジーグ風フーガ BWV577、チャイコフスキー:「くるみ割り人形」作品71より、葦笛の踊り、金平糖の踊り、グレゴリウス:即興演奏「日本の歌に基づく舞踏風組曲」、価格2,000円、7月1日(日)発売



## 着物は楽しい！ ～着物学校に入って一年～

アグニェシュカ・ポヒワ

大学1, 2年生のころ先生に着物を着せてもらって、同級生何人かで写真を撮ったのが初めての着物体験でした。それから留学、卒業などを経て日本に引っ越してきてしばらくは、着物を着る機会は数回程度しかなく、周りにも着物を着る人は一人もいませんでした。私はファッション

が好きなので、古着探しにリサイクルショップに行くと、着物コーナーの前で必ず立ち止まって見とれていました。「なんだかおもしろそうだけど、よくわからないなあ」という気持ちいっぱい、私にとって着物はただただ遠くから見つめる珍しいものでした。

### 着付けを習おうと思ったきっかけ

ところが着付けを習おうと思ったきっかけは、いくつかあります。私はフォトグラファーとして仕事をしていて、私の夫もフォトグラファーです。彼の知り合いの美容師さんと撮影現場で何回か会って仲良くなりました。彼女は着物学校の卒業生で、着物の話も何回か出ました。いつかモデルさんに着物を着せてカッコいい作品を創りたいなど、なんとなく空想している私に、ある日夫が「着物に興味あるなら、着付け習えば？」と言い出しました。それで実際に考えてみると、これはチャンスかも、と思いました。私は外国人で、女性で、日本に住んでいて、しかも日本語をしゃべることができます。そして、日本文化を学んできて、これからも学んでいきたい私は、着付けができれば写真にも結びつけられるし、年齢を重ねてもできます。仕事でも個人でも楽しめる一生残るスキルではないかと思えます。また、ファ

ッション業界で見られる面白く、かっこよく、クリエイティブに和服を取り入れた写真を撮ろうとすると、いずれは理解と知識の不足の壁にぶつかりそうな予感もしていました。そのため、まずは着物の基礎からしっかり学んで、着物文化を理解したうえでクリエイティブワークに結び付けたほうがより深いコンテキストを持った作品ができるのではないかと思います。お稽古を始めることにしました。

### 着物を着る楽しさ

人に着付けるために習いはじめた私ですが、お稽古や学校のイベントのおかげで、自分で着物を着る楽しさもわかってきました。着物のコーディネートだけではなく、着方によって自分の気持ちも変わってくることに気づきました。改まった宴会でお稽古で習ったきれいな着物の着方をするときの優雅な気持ち、友達との飲み会では着物と洋服を合わせたロックな気持ち。近所のラーメン屋に行こうとジャケットの代わりに羽織を着た時のゆるい気持ち。毎日あらゆる場面で和服を取り入れてみると楽しみが増え、着物のおかげで人生が豊かになりました。

現在、高等師範科に通っていますが、着付けのコツだけでなく、例えば私の好きな日本の服飾史のなかでの着物の変遷なども学べるので、お稽古が興味深く、手だけではなく頭も働かせるきっかけにもなります。どんどん着付けが上手になって、また近いうちにかっこいい写真が撮れたらいいなお稽古を頑張っています。そして、いずれポーランドの素敵な民族模様を日本の民族衣装の着物に移して自分の着物ラインをデザインしたいなどと思って、只今スキルと知識を重ねながら仕込み中です！

(Agnieszka Pochyla、運営委員、2018.3)

## 《第85回例会》ブロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念 講演と朗読と映画の集い～ポーランド、サハリン、北海道～



会場:北海道大学学术交流会館 1F 小講堂、日時:2018年7月29日(日)13:30～  
(1)講演:井上紘一(北海道大学名誉教授)、佐々木史郎(国立民族学博物館名誉教授)、  
新井藤子(北大大学院修士課程)、(2)朗読:長屋のり子/自作詩「チュフサンマの悲歌」、  
白井順/花崎皋平作/長編物語詩「チュフサンマとピウスツキとトミの物語」、  
谷谷茂靖/土橋芳美作「痛みのペンリウクとバフンケ」(仮)、(3)ドキュメンタリー映画:ピウスツキ・ブロニスワフ～流刑囚、民族学者、英雄 Pilsudski Bronisław — zesłaniec, etnograf, bohater. Film o Bronisławie Piłsudskim, starszym bracie Marszałka Piłsudskiego (TVP, 2016, 日本語字幕)

《ポーランド古都めぐり》

## ポーランド「最初の都」ポズナン

津田 晃岐

(写真1)ポズナンと言えども、毎日正午に旧市庁舎の時計台に現れる「山羊」が有名。伝説どおりに二匹が角を突き合わせる事十二回。

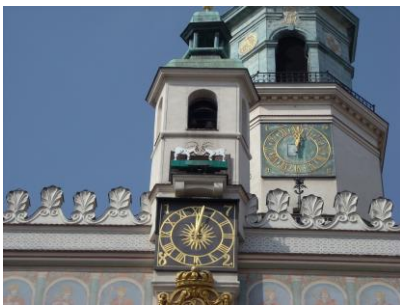
(写真2) つついて、ヴァルタ川の中洲に建つ司教座聖堂には「ミェシュコー世の洗礼盤」が残る。このピヤスト王朝創始者の洗礼とともに、キリスト教国ポーランドが誕生した(966年)。当時ポズナンが国政上占めていた立場から、ポズナンを「最初の都」と見なす学者は多い。

(写真3) また、旧市街の一角「プシェミスウ山」は

13世紀の王都の跡で、現在はポーランド王プシェミスウ二世(在位1295~96)の居城が再現されている。

(写真4) さらに三国分割時代の遺産「帝城」も、ドイツ皇帝プロイセン王ヴィルヘルム二世(在位1888~1918)の威勢を伝え、古都ポズナンの繁栄を偲ばせる。その皇帝の城の一部が今では、共産政府に対する1956年の市民蜂起「ポズナン暴動」の博物館(写真5)になっているのも面白いところだ。

ポズナンの歴史は、そのままポーランドの歴史になっている。(つだ・てるみち, 2018.3)



(1)



(2)



(3)

今秋ポーランド旅行を計画しています。

ワルシャワ、クラクフのほか、オプションの訪問地を考えるための参考に、ポズナンの街について紹介していただきました。

(1)津田撮影, (2) By Radomil - Praca własna, CC BY-SA 3.0, (3) By Poznaniak - Praca własna, CC BY-SA 2.5, (4) CC BY-SA 3.0, (5)津田撮影



(4)



(5)



ポーランド&ニッポン歳時記



### 鳥の餌付け

この冬、鳥の餌台を設けました。我が家のベランダが鳥たちの間で意外な人気になっています。飛んでくるのは——シジュウカラ、ゴジュウカラ、カケス、カササギ、そして時々つがいのシラコバト。でもなぜか普通のスズメが姿を見せないのです。

bezlistne drzewo

朝の声

bogatki na gałęziach

裸の枝の

z samego rana

四十雀

Monika Tsuda, Poznań ポズナン市、津田モニカ

na śnieżnym puchu

新雪に

dróżka narysowana

狐の跡が

lisa śladami

描く道

Piotr Wrzeciono, Warszawa ワルシャワ市、ピョートル・ウジェチョノ

大蜩しじみ月のぼぼなはニューヨーク

岩見沢市、霜田千代磨

ベガサスの疾走エゾの馬櫓かな

凍道はツルツルすべる人の哀しみ

◎《第 83 回例会》朗読とお茶の会「午後のポエジア」8  
会場:ドラマシアターども(江別市 2 条 2 丁目)、日時:2018 年  
5 月 26 日(土)14:00～(開場 13:30)、入場無料

◎《第 84 回例会》ポーランド名画 DVD 鑑賞会、『影』1956 イ  
ェジー・カヴァレロヴィッチ監督、『パサジェルカ』1963 アン  
ジェイ・ムンク監督、会場:札幌エルプラザ 4F 中研修室、日  
時:7 月 21 日(土)13:30～(開場 13:00)、入場無料

お問い合わせ: 090-2695-3880(小林)



### 目 次

《創立三十周年記念演奏会》	1
「アウシュビッツの聖者」コルベ神父とガヨヴニチェック軍曹(松本照男)	2
ポーランド映画祭 2018 in 札幌	2
スゴイ! ～雪まつりの思い出、日本の思い出(トマシュ・コツランガ)	3
オーストラリアで麻雀を楽しむポーランド人たち(ラファウ・ジェプカ)	4
マルタン・グレゴリウスさんの演奏会など(2018 年 6～8 月)	5
着物は楽しい! ～着物学校に入って一年(アグニェシュカ・ポヒワ)	6
《第 85 回例会》プロニスワフ・ピウスツキ没後百年記念〈講演と朗読と映画の集い〉	6
ポーランド「最初の都」ポズナン(津田晃岐)	7
ポーランド&ニッポン歳時記(津田モニカ、ピョトル・ヴジェチヨノ、霜田千代麿)	7

#### 今後の予定(2018.4～8)

○〈後援〉ポーランド映画祭 2018 in 札幌、札幌  
プラザ 2・5、4 月 21 日(土)11:30～

◎《第 83 回例会》朗読とお茶の会「午後のポエジ  
ア」8、ドラマシアターども、5 月 26 日(土)14:00～

○〈後援〉♪オルガンサマーナイトコンサート、出  
演:マルタン・グレゴリウス、札幌コンサートホール  
*Kitara* 大ホール、6 月 9 日(土)18:00～

◎♪《創立三十周年記念演奏会》、札幌コンサ  
ートホール *Kitara* 小ホール、6 月 23 日(土)17:00～

○〈後援〉♪*Kitara* のバースデー、出演:マルタ  
ン・グレゴリウス(オルガン)、ライナー・キュッヒル(ヴ  
ァイオリン)、札幌コンサートホール *Kitara* 大ホール、  
7 月 1 日(日)15:00～

◎《第 84 回例会》ポーランド名画 DVD 鑑賞会、  
カヴァレロヴィッチ監督『影』1956、ムンク監督『パ  
サジェルカ』1963、札幌エルプラザ 4F 中研修室、  
7 月 21 日(土)13:30～

◎《第 85 回例会》プロニスワフ・ピウスツキ没後  
百年記念 講演と朗読と映画の集い、北大学術交  
流会館 1F 小講堂、7 月 29 日(日)13:30～

◎《第 86 回例会》♪マルタン・グレゴリウス オ  
ルガンリサイタル、北大クラーク会館講堂、8 月 10  
日(金)午後

入会(2018.1～3、敬称略)

篠原朗子

新年度(2017.9～2018.8)会費納入のお願い

年会費(一般3千円、学生 1,500 円)、維持会費(任  
意のご寄付1口千円)の納入は下記にお願いします。

※ 未納分のある方には、個別の納入お願い  
文と振替用紙を同封いたします。

【郵便振替口座】[記号]02740 5 [番号]19735  
【加入者名】 北海道ポーランド文化協会

# POLE

第 94 号 ポーレ編集委員会

熊谷敬子/越野剛/塚本智宏/松山敏/ラファウ・ジェプカ